

2026 年 10 月 5 日
iPEACE223 株式会社

**iPEACE223 が環境省「令和 8 年度脱炭素型循環経済システム構築促進事業」に採択
～バイオエタノール由来の高収率モノマー製造によるプラスチック原料の脱炭素化技術実証～**

ETP 反応に適したゼオライト触媒により、バイオマス原料からグリーンプロピレン製造技術の確立を目指す iPEACE223 株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役：瀬戸山 亨、以下「iPEACE223」）は、このたび環境省「令和 8 年度脱炭素型循環経済システム構築促進事業（うち、プラスチック等資源循環システム構築実証事業）」において、実証業務「バイオエタノール由来高収率モノマー製造によるプラスチック原料の脱炭素化技術実証」が採択されたことをお知らせいたします。

本事業は、化石資源由来プラスチックを代替する省 CO₂ 型バイオプラスチック等への転換および社会実装を目的として実施されるものです。iPEACE223 は、国立大学法人東京科学大学（東京科学大学）と共に、バイオエタノール由来グリーンプロピレン（GPY）を既存プラスチック原料として社会実装可能な水準で製造するための技術実証を行います。

【主な役割】

iPEACE223 株式会社 （代表事業者）	● プロセス開発、実証 ● プロセス統合・評価 ● スケールアップ・社会実装
国立大学法人東京科学大学 （共同実施者）	● 触媒開発 ● 構造解析 ● 基礎反応解析

プラスチックの原料であるエチレンやプロピレンは、その大半が石油由来のナフサから製造されており、製造段階で多くの CO₂ を排出しています。日本は 2050 年カーボンニュートラルを掲げ、「プラスチック資源循環戦略」のもとで原料そのものの脱炭素化が求められていますが、バイオマス由来原料からモノマーを製造するプロセスは収率とコストの両立が大きな課題となっており、社会実装には至っていないのが現状です。

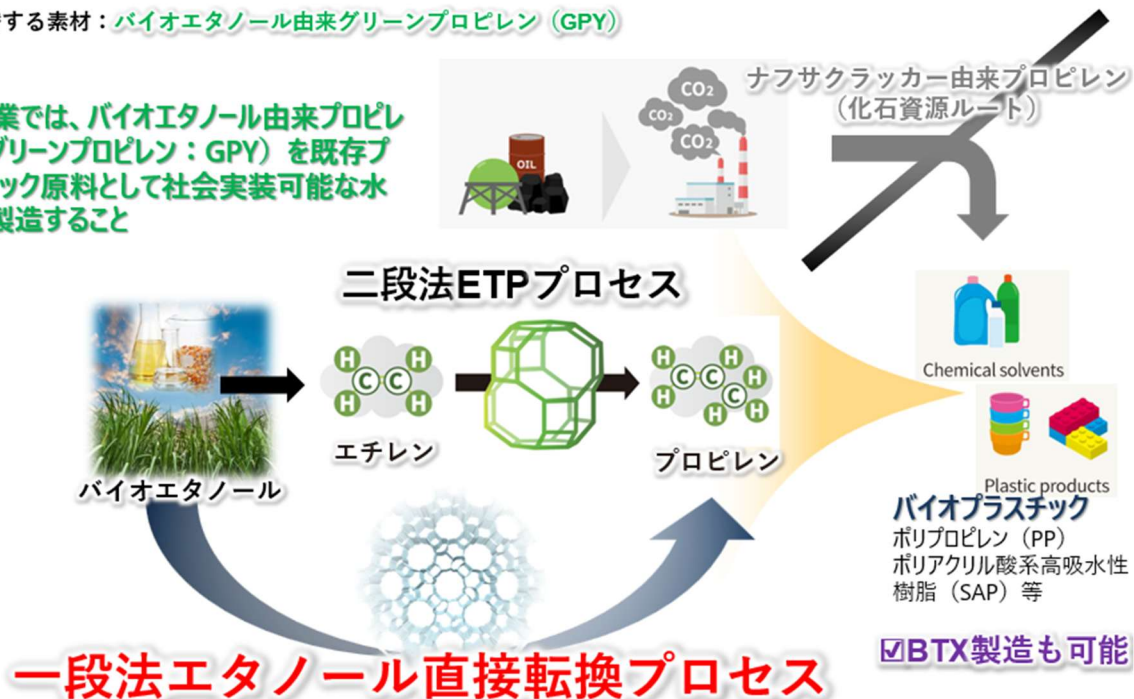
iPEACE223 は、東京科学大学と連携し、ゼオライト触媒の細孔構造、酸性質および酸点位置を精密に制御することで、エタノールを直接プロピレンへ転換する一段法プロセスの高選択率化に取り組みます。本技術が社会実装された場合、バイオエタノール由来グリーンプロピレン（GPY）は化石由来プロピレンと同一分子であるドロップイン型モノマーとして、既存のポリプロピレン・SAP 製造設備やリサイクルシステムを活用することも可能です。

➤ 代替される石油由来プラスチック：ポリプロピレン（PP） ポリアクリル酸系高吸水性樹脂（SAP）等

➤ 代替する素材：バイオエタノール由来グリーンプロピレン（GPY）

目的：

本事業では、バイオエタノール由来プロピレン（グリーンプロピレン：GPY）を既存プラスチック原料として社会実装可能な水準で製造すること



【ご参考】

[環境省 報道発表「令和8年度脱炭素型循環経済システム構築促進事業（うち、プラスチック等資源循環システム構築実証事業）（委託）の 公募結果について」](#)

■会社概要

会社名：iPEACE223 株式会社（iPEACE223 Inc.）

研究開発拠点：神奈川県横浜市緑区長津田町 4259

東京科学大学すずかけ台キャンパス内 R2B 棟 206 号室

設立：2023 年 8 月 1 日

代表取締役：瀬戸山 亨

事業内容：バイオエタノールからプロピレン（化学品原料）およびプロパン（燃料）等を製造する触媒プロセスの開発とプラントのプロセス設計

URL：<https://ipeace223.com>